



パンフレット No.MA409
2018年11月作成
工 業 用

染色工程合理化用残留過酸化水素除去剤

ユニラーゼC-100P

(UNILASE C-100P)

セルロース繊維の染色において、漂白に用いられた過酸化水素が染色浴に混入した場合、染色濃度の低下や再現性不良等のトラブルの原因となります。生地に残留した過酸化水素を除去するためには、ソーピングや水洗・湯洗いの繰返しが必要とされます。

ユニラーゼC-100Pは過酸化水素分解酵素（カタラーゼ）を主成分とし、残留過酸化水素を効果的に分解し、染色トラブルを未然に防止します。

性 質 ・ 性 状

外 観	緑色～緑褐色液体
成 分	過酸化水素分解酵素
p H	5.0～5.6
溶 解 性	任意の割合で水に溶解します。

(上記の数値等は代表値であり、規格値ではありません。)

特 徴

1. 合理化染色が可能となり時間・水・エネルギーの節約が出来ます。
2. 還元剤系に比べて、過剰使用した場合でも染色へ悪影響を与えません。
3. 還元剤系のように加熱する必要がなく、エネルギー・時間の節約になります。



使用 方 法

精練漂白処理後、浴のpHを6～7に調整し、所定量のユニラーゼC-100Pを加え、30～45℃で20分間処理し、その後常法により染色します。残留過酸化水素量及び処理条件により異なりますが、標準使用量は漂白に使用した過酸化水素の1/10～1/5量を使用します。精練漂白処理後、排液を行った場合はユニラーゼC-100Pの使用量を適宜減量して下さい。

注 意 事 項

1. ユニラーゼC-100Pの諸性質

ユニラーゼC-100Pは種々の外的条件によってその作用が左右されます。最適条件で使用するにより有効に活用する事が大切です。

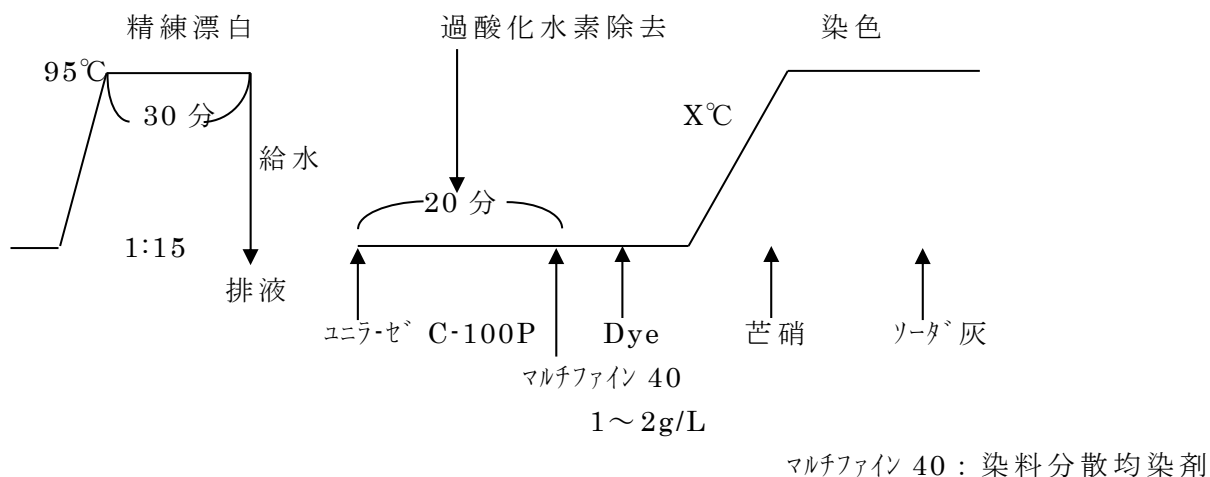
最適条件 { pH 6～9.5 (安定pH域5～9.5)
温度 20～45℃ (安定温度域50℃以下)

- ・ 処理温度が高い場合は一度水洗して、処理温度を45℃以下に下げたからユニラーゼC-100P処理をして下さい。
- ・ 任意の割合で水に易溶ですが、希釈後長時間の放置は好ましくありません。
- ・ 過酸化水素残留有無の判定は市販の試験紙をお使い下さい。

2. 保存時の注意

10℃では1ヶ月たってもほとんど効力は変わりませんが、40℃で放置すると若干(約5%)効力が低下する場合がありますので、冷暗所で保存して下さい。

使用例
(工程)



試料：綿メリヤス生機

精練漂白処方

{	H ₂ O ₂	(35%)	5 ml/L	
	NaOH	(フレーク)	1 g/L	
	センカノール C-10		2 g/L	(過酸化水素安定剤)
	マルチノール C-60N		2 g/L	(精練浸透剤)
浴比		1 : 15	95°C × 30分	

過酸化水素除去処理

ユニラーゼ C-100P 0.2 ~ 0.5 ml/L
浴比 1 : 15 40°C × 15分処理

ご 注 意

使用に際しましては充分試験の上ご使用下さい。

入 目

18 kg



ユニラーゼ[®] C-100P

取扱いおよび保管上の注意事項

酵素製剤ですので、大量の吸引あるいは長時間接触により皮膚疾患またはアレルギー性の症状等を生じる場合があります。

- 1) 本品は酵素製剤ですので、取扱いには充分注意して下さい。
- 2) 取扱い中は、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように保護手袋、保護メガネ及び粉末品の場合は防塵マスクを着用して下さい。
- 3) もし誤って眼や口に入ったときは、直ちに流水でよく洗い流し医師の手当てを受けて下さい。
- 4) 皮膚に直接触れた場合は、直ちに流水でよく洗い流して下さい。もし発疹その他の異常が生じた場合は速やかに医師の手当てを受けて下さい。
- 5) 取扱い後は手洗い、うがいを充分に行ってください。
- 6) 使用途中の容器は密閉し、異物が入らないようにして下さい。
- 7) 保管に際しては直射日光を避け、冷暗所（5℃～35℃）で保管して下さい。
- 8) 廃棄するときは、産業廃棄物として処理して下さい。

お 願 い

弊社発行の「安全データシート（SDS）」を用意しております。
併せてご活用下さい。